

なぜ「若者福祉」なのか

■利他の心をもって

このたび改めて市政を担わせていただくことになりました。利他の心をもって責任を果たして参ります。

さて、これまでの2期8年間には、3年間の新型コロナウイルスによるパンデミック、大雨や地震などの自然災害、不安定な国際情勢による政治経済の混乱などさまざまな出来事がありました。このような中にあっても多くの方々の努力により市政は着実に前に進むことができました。他方で、課題は以前にも増して複雑で解決の難しいものとなってきています。その典型が人口減少問題です。

多くの人が強く実感する少子高齢化がこのまま続けば人口構造の逆ピラミッド化はさらに進み、既存のシステムは間違いなく立ちいかなくなります。残された時間はわずかです。

■「少子高齢化」と「若者福祉」

私は「少子高齢化」という言葉にずっと違和感を覚えていました。「少子化」と「高齢化」はまったくの別物のはずですが、なに、この二つはいつも一括りにされてきました。少子化は子育て支援、高齢化は高齢者福祉と社会保障制度の改革といったように、焦点が狭められてきたのではないかと感じています。

もちろん、それぞれは速やかに解決しなければならぬ課題ですし、実際、都市部における保育所不足や高齢者医



社会福祉法人仁賀保保育会 にかほ保育園

一人ひとりに寄り添った保育で
笑顔と癒しがあふれる毎日を

にかほ保育園は現在、約160人の園児が在籍中ですが、年長クラスでは41人の園児に対して3人の担当職員を配置するなど、園児一人ひとりに寄り添った、きめ細かい保育を心がけています。秋は落ち葉遊び、冬は雪遊びなど季節に合った活動のほか、連絡帳や日誌の記入、お便り・個人記録作成などの事務作業や行事、保育の準備、おもちゃなどの消毒といった環境整備も日々行っています。

保育士は園児と過ごす時間が大半であるため、大変なこともあります。笑わないで帰る日は一日もないと言っているほど、毎日元氣と癒しをもらえる素晴らしい職業です。また、一緒に体を動かしたり、笑うことで元氣をもらい、若さを保っているような気がしますし、「先生大好き」「保育園に行きたい」と嬉しそうに言ってもらえたり、園児たちの可愛い笑顔や楽しそうな表情を見ていると、とてもやりがいを感じます。

他にも、園児の成長が見られた時や卒園児の活躍を聞いた時などは幸せを感じますし、かつて担当した園児が、保護者として自身の子どもを預けてくれることも多く、とても誇りに感じています。

保育士というと、全国的にサービス残業が問題視されている昨今ではありますが、にかほ保育園はクラス関係なく、全保育士が仕事を助け合い、協力しているため、残業が少なく働ける環境です。また、人間関係も良く、プライベートの悩み事も相談できる、とても明るい職場ですよ。

企業情報

にかほ保育園は大きく広々とした園庭や、近くに大沢川や公園があり、四季折々の自然を身近に感じられる環境です。この恵まれた環境のもと、令和8年4月ににかほ保育園が誕生して30年を迎えます。当園では「にこにこ はきはき がんばる子」を保育目標に掲げ、子どもたちが安心して自分を表現できる環境づくりに励み、保護者の皆様が安心してお子さんを預けていただけるよう職員全員で頑張っています。

地域の皆様にも日頃より温かい目で見守っていただき感謝しています。今後もご支援、ご協力をお願いします。

▷所在地
▷事業内容

にかほ市院内字嶋田70
乳幼児保育、障がい児保育、病児保育、延長保育、一時預かり保育、休日保育、子育て支援センター事業、放課後児童健全育成事業

▷従業員数
▷電話
▷FAX
▷Eメール

43人
0184-32-3200
0184-32-2078
ni.hoikuen@chokai.ne.jp



「にかほbiz」に掲載する事業所を募集しています！

若者や女性の採用に積極的な事業所やイチ押しの魅力などを持っている事業所を紹介します。申し込みは商工政策課(☎43-7600)まで！



にかほ市移住・Uターン・お仕事支援ポータルサイト



■「地方創生」と「若者福祉」

療等の社会保障制度改革などは着実に進んでいます。ただ、これらの取組みでは「人口減少」に歯止めをかけることができていません。その理由の一つに、子どもとお年寄りに挟まれた現役世代、若者へのアプローチが不足していたからだとは考えています。

これまでも市長コラムにおいて「若者福祉」の必要性を何度となく述べてきました。若者世代が人口減少対策の主対象として捉えられるべきは、繰り返しのこと、失われた30年間の若者へのアプローチが足りなかったことにあります。

平成26年から始まった地方創生の考え方は全国の市町村にとっての新機軸になりました。もちろん以前から市町村は規模の大小にかかわらず、「住民の生命・財産・自由を守り、持続的な地域社会の実現を促すこと」を行政目的としてきました。そして、地方創生の取組みは、この市町村の本来の目的を、目に見えてわかる施策に落とし込むうえで大いに役立ってきました。特に、地方創生が人口減少問題を解決するための手段に位置付けられたことで、施策の目に見える化は勢いよく進んできたと思います。

これは財政基盤の脆弱な多くの市町村において望ましいことでした。目標が明確ならば結果は得られやすくなります。

■今後の政策方針

今年6月、政府は閣議決定された「地方創生2・0基本構想」の中で、これまでの地方創生の取組みについての反省を述べています。また、10月には民間主導の新組織「未来を選択する会議」が発足しました。この新会議は、地方創生1・0への反省をもとに、官民あわせて若者や女性への対策に取組んでいくことを宣言しています。若者福祉へのアプローチの重要性がいまあらためて認識されてきていると言えます。



にかほ市長
市川雄次

